森を育て、人を育て、まちの未来を育てる。

日南町が挑む「循環型林業」によるグリーン成長

全国から注目される日南町の森林モデル

日南町の面積の約9割を占める森林。古くから私たちの暮らしや産業を支えてきたこの森林が、今、全国から注目されています。

日南町では、森林を単に木材を生産する場所として捉えるのではなく、地域の産業、雇用、環境、そして人を育てる大切な資源として位置づけ、森林資源を余すことなく活用する「循環型林業」に取り組んできました。

現在、日南町の木材団地から流通する素材取扱量は約12～13万㎥／年。町行政、森林組合、素材生産事業者、木材加工事業者が連携し、木材の安定した取引や山主への利益還元、再造林への支援など、森林の循環を地域全体で支える仕組みづくりを進めてきました。日南町が目指すのは、森林を育てながら地域の経済も育てていく、持続可能な林業の姿です。



森林の「循環」をまち全体でつくる

森林の循環を実現するためには、伐採から木材の利用、再造林、そして次の森林を育てるまで、一連の流れをつなぐことが大切です。

日南町では、森林所有者が安心して森林整備に取り組めるよう、町独自の支援制度を整えています。伐採後の再造林については、国・県の補助に町独自の支援を上乗せし、森林所有者の植栽時の実質負担を軽減する仕組みを構築。植栽後の下刈りや雪起こしなどについても、森林組合のご協力により町と森林組合等が連携して森林の再生を支えています。

こうした取組によって、木を伐った後に植えずに放置するのではなく、次の世代に引き継ぐ森林を育てることができます。

さらに、森林の適切な管理によって生み出される二酸化炭素の吸収量をJ-クレジットとして販売し、その収益を森林整備に活用する取組も進めています。森林を整備することが、木材の生産だけでなく、環境価値の創出にもつながる。森林の持つ多様な価値を地域に還元する仕組みづくりです。

次の森林を育てるカラマツが拓く、新しい林業

循環型林業を将来にわたって続けていくためには、伐採後に植える苗木の確保と、成長の早い森林づくりも重要です。日南町では、新たな取組としてカラマツの植栽を進めています。

カラマツは成長が早く強度が高いため、木材としての利用価値も期待される樹種です。旧阿毘縁小学校の跡地を活用し、コンテナ苗による育苗方法を採用し、カラマツを中心に年間約12万～13万本の苗木を出荷しています。

森林を伐った後に植える苗木を、地域で育てる。苗木の生産から森林の再生までを地域内でつなぐことが、これからの循環型林業を支える大切な一歩となっています。

